

令和2年度
学校関係者評価報告書



令和3年8月

学校法人 岡山科学技術学園
岡山科学技術専門学校

I 令和2年度 学校関係者評価について

学校法人岡山科学技術学園 岡山科学技術専門学校は、文部科学省が平成25年3月に策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、全教職員に実施した自己評価とともに、学校長が作成した自己点検・自己評価の資料を基に、学校関係者評価委員会を開催し、令和2年度の学校関係者評価を実施しました。

評価にあたっては、学校運営に関わる部分、教育活動に関わる部分、学科教育活動に関わる部分等について協議するとともに、関係の委員の方々から貴重な御意見や御提言をいただきました。

協議を通していただきました御意見や御提言等は大項目ごとに要約し、「令和2年度 学校関係者評価報告書」として取りまとめました。

本報告書の内容につきましては、校内の運営委員会に諮り緊急性・重要性等の優先順位に基づき改善等の具体案を作成し、次年度の学校運営等の改善や学科教育方針の見直しに活かすとともに、本校の教育理念でもあります「技術教育を通じての人間教育」をより充実させ、産業界で活躍できる有為な職業人の育成に繋げて行く所存です。

令和3年8月1日

学校法人 岡山科学技術学園
岡山科学技術専門学校
校長 大月 秀之

II 学校関係者評価委員名簿 (敬称略)

氏名	所属	関連学科 (学科略記号)
栗田 真志	株式会社プローバ 代表取締役	映像音響学科 (V)
小上 敏寿	旭電業株式会社 総務部 総務課係長	電気工学科 (E)
原 潔巳	平喜酒造株式会社 製造部長	食品生命科学科 (B)
白神 直子	株式会社三幸工務店 営業部次長	建築工学科 (K)
田中 浩二	西尾レントオール株式会社 取締役営業部長	測量環境工学科 (N)
岸本 晋一	ゼノー工具株式会社 常務取締役	ものづくり創造学科 (S)
森 幸久	マルケー自動車整備株式会社 総務部長	一級自動車工学科 (LM)
坂本 忠俊	山陽ヤナセ株式会社 営業本部サービス管理室 次長	二級自動車工学科 (M)
杉山 昌希	両備ホールディングス株式会社 両備テクノモビリティカンパニー	国際自動車工学科 (IM)
藪田 尊典	岡山科学技術専門学校 同窓会 会長	全科
池田 かおる	岡山科学技術専門学校 保護者会 会長	全科

Ⅲ 大項目ごとの現状・課題と関係者評価・意見

1 教育理念

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切	3：ほぼ適切
		2：やや不適切	1：不適切
1	学校の理念・目的・育成人材像は適切に定められているか	3.4 (3.3)	94.1% (94.5)
2	学校の特色はうまく（適切に）表現できているか	3.0 (3.0)	84.3% (74.5)
3	学校・学科の将来構想（3～5年を見据えた）を抱いているか	△2.7 (2.5)	58.8% (55.6)

(2) 現状

1. 教育理念、目的、育成人材像については、教育活動方針に定め、全教職員達成に向け取り組んでいる。
2. 本校の教育目標は、工業系の総合専門学校として社会に貢献できる、心豊かで逞しい技術者の育成である。専門教育の充実、資格取得の推進、進路指導の充実、学生指導の充実を教育活動の柱とし、社会の変化に柔軟に対応できる、即戦力となる技術者の育成に努めている。
3. 職場懇談会等の理事長講話を通して全教職員に将来構想を周知している。また学科においては、学科所属の全教員の意思疎通を図り、職業実践専門課程認定学科として、3～5年後を見通した学科像を策定している。

(3) いただいた意見

- ・増加する留学生の基礎学力(特に日本語)の向上を図ることが喫緊の課題である
- ・受け入れている学生の在り方や現状と、目指すべき姿が大きくかけ離れているように感じる。受け入れる学生の姿を捉えた目標や方針を改めて考えても良いように感じる。
- ・学科のことは学科で責任を負うという方針を強く感じる。学校全体として全職員で考える姿勢をあまり感じない。

(4) 考察

教育理念については一定の理解が進んできたと考えている。

(5) 関係者評価・意見

意見：なし

2 学校経営

評価項目		4：適切	3：ほぼ適切
		2：やや不適切	1：不適切
1	目的に沿った運営方針が策定されているか	●2.7 (2.9)	60.8% (72.7) ↓
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	2.8 (2.8)	66.7% (65.5)
3	運営組織や意志決定機能は明確になっているか	2.7 (2.8)	58.0% (64.3)
4	人事・給与に関する規定等は整備されているか	3.1 (3.1)	77.6% (81.8) ↓
5	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.3 (3.4)	86.3% (96.4)
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.8 (2.8)	68.0% (69.6)

(2) 現状

1. 本校教育を取り巻く諸情勢を踏まえて経営方針、教育活動方針を策定している。例年であれば年度当初の教職員全体会議において非常勤を含む全教職員に周知し、また職場懇談会等で適宜確認をしているが、今年度に関しては新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、職場懇談会等での確認が十分とれているとは言い難い状況となった。
2. 経営方針並びに教育活動方針に基づき事業計画を策定している。
3. 組織図及び職務分掌に基づき、階層的に権限・義務・責任を設け、意志決定機能の明確化に努めている。
4. 人事・給与については、就業規則並びに賃金規程を整備し、適正に行っている。
5. 教育活動に関する情報は、学校概要、教育活動方針、シラバス、進級・卒業要件、自己点検・自己評価、学校関係者評価等の情報をホームページ上で公表するとともに、学校案内やカギセンニュースを通して広く公表している。
6. 校内の全業務を管理するシステムを導入しており、今後も関係部署との情報交換を密にし、運用・利用方法の拡大・改善に向けた検討を進めていく。

(3) いただいた意見

- ・適材適所の人材配置となっているか疑問を感じるので、見直しも必要だと思う。

(4) 考察

学校経営については、社会の情勢や関係部署の総括を踏まえて運営方針を策定することを目指しているが、コロナ禍のため職場懇談会等が中止となった影響もあり、学科の設置などの情報共有が不十分であった。今後は新計画の実現に向け組織的な運営に努めたい。

情報システム化に関しては、今後とも継続して改善に努めたい。

(5) 関係者評価・意見

意見：新設学科及び変更学科に関する具体的内容について教えて欲しい。(電気工学科)

3 教育活動

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	教育理念等に沿った教育課程を編成しているか	3.2 (3.1)	89.8% (87.3)
2	学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	△3.3 (3.0)	87.2% (80.0)
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	△3.2 (3.0)	87.2% (80.0)
4	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.3 (3.2)	91.8% (85.5)
5	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	△3.4 (3.2)	91.7% (83.3) ↑
6	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	3.3 (3.2)	91.7% (90.6) ↑
7	指導力のある教員の確保に努めているか	2.6 (2.6)	56.3% (52.8)
8	先端的な知識・技術・技能等の教員研修や指導力など資質能力向上の取組が行われているか	●2.6 (2.9)	53.2% (83.0)
9	教職員の能力開発のための研修が行われているか	●2.5 (2.9)	49.0% (81.1)

(2) 現状

1. 教育理念に基づいた教育活動方針、学科教育方針、また教育課程編成委員会での提言も踏まえ、豊かな人間性と実践的な知識・技術が習得できる教育課程を編成している。
2. 学科ガイドブックでは育成する学生像について明確にしておき、また各科目のシラバスにおいては授業時間数や到達レベルを明示している。併せて社会のニーズに即した教育活動を推進している。
3. カリキュラムは、学科教育方針に基づき、実習を重視しつつ講義や実習が系統的・体系的に学べるよう編成している。
4. 授業評価は、教育の質の向上の観点から教員評価の一環として位置づけ、学生による授業アンケートを年2回、教員による授業評価を年1回実施し、管理職による授業評価と合わせ総合的に評価している。
5. 明確に定義され、HP上に公表している。
6. 学科教育方針に基づき、年間を通して系統的、計画的に実施している。
7. 教職員の確保については、教職員としての資質・能力、指導力、豊かな人間性を備えた人材の確保に努力している。
8. 企業、関係団体による技術研修会や講演会を実施し、技術・技能や指導力の向上に努めているが、今年度に関してはコロナウイルス感染症の影響のため、対面での実施機会が減少した。
9. 外部講師を招聘した教員研修やテーマを設けた公開授業等により、教職員の資質・能力の向上に努めているが、この項目に関しても機会が減少した。

(3) いただいた意見

- ・設備・講師の確保は学校の資金面での課題も多く、現状でできることを行うしかない。
- ・コロナ禍のため、計画した研修等が実施できなかった。(他3件)

(4) 考察

研修等が実施できていないため、この項目の平均点が低下した。今後はリモート等の方法で実施することも検討したい。また、技術者不足の影響もあり教員採用に関しては難しい状況が続いているが、優秀な人材の確保に努めたい。

(5) 関係者評価・意見

- 意見：①新設学科又は変更学科について、具体的な内容を伺いたい。また、コロナ禍において企業側として、協力できることがあれば検討していきたい。(電気工学科)
- ②電気分野への進学が減少しているが、今後の対応策を検討して欲しい。また、留学生の日本語能力を高める指導をお願いしたい。(電気工学科)
- ③専門業界で即戦力となるための具体的な取り組みや指導を是非お願いしたい。(食品生命科学科)
- ④資格取得率がそれほど高くないが、今後は高める指導をお願いしたい。(建築工学科)
- ⑤対面での教員研修は、なかなか行えていないが、リモートなど活用して欲しい。(ものづくり創造学科)
- ⑥映像音響学科科では、県内だけでなく東京・大阪方面への就職も目指し、熱心な指導をしていただいている。(保護者会)
- ⑦新しい分野としてYouTuberの養成やドローンによる撮影技術、タブレットを使った授業などが挙げられるが、学校の取組みについて伺いたい。(映像音響学科)
- ⑧インターンシップで、大型重機を無人で操作するなど海外の最新技術を提供したい。(測量環境工学科)
- ⑨質の高い学生(優秀な人材)を受け入れることが企業の活性化につながる。(1級自動車工学科)
- ⑩コロナ禍における遠隔授業の進め方や問題点についてのどのように対応しているか。(2級自動車工学科)
- ⑪「車の変化への対応法」および「学科の方向性」について伺いたい。(国際自動車工学科)
- ⑫奨学金返済について、企業による返済協力を全国展開しており、学生支援につなげたい。(同窓会)

4 学修成果

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	就職率の向上に努めているか	3.4 (3.3)	90.0% (88.7)
2	資格取得率の向上に努めているか	3.3 (3.4)	98.0% (98.1)
3	退学率の低減に努めているか	○3.0 (2.8)	77.6% (67.3)
4	卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	<u>2.9 (2.8)</u>	<u>76.6% (82.2)</u>

(2) 現状

1. 企業訪問や説明会、進路指導連絡協議会等を活用し、進路指導課と学科長・担任が連携して学生一人ひとりの適性を生かした就職支援に努め、早期決定と内定率の向上を目指した指導に取り組んでいる。

2. 学科ごとに目指す資格を掲げ、入学時から計画的な指導を行っている。
3. 学生の日頃の様子を観察するとともに、家庭との連携を密にした指導により、退学者の低減に努めている。
4. 学生の就職指導、卒業生の支援に役立てるため、就職先の企業に対し、定期的に卒業生の状況調査を実施している。また、高校の関係者からの卒業生の情報収集にも取り組んでいる。なお、企業の方等からの意見や課題等については、各学科へフィードバックし、指導内容・指導方法の改善に努めている。

(3) いただいた意見

- ・就職状況、進路指導状況に問題があるということではなく、学校全体としての指導や支援状況に一貫性が無いように感じるので、見直しが必要ではないか。

(4) 考察

コロナ禍の影響もあり本年度は留学生の退学・除籍者が多かったが、保護者への連絡が難しいため指導に限界がある。また、工業専門課程の卒業生については半年後に現状確認を、就職先の企業に対しては5年間の追跡調査を行っているが、他校に進学した日本語学科卒業生の状況が十分には把握出来ていない。

(5) 関係者評価・意見

意見：なし

5 学生支援

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切	3：ほぼ適切
		2：やや不適切	1：不適切
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.1 (3.0)	84.3% (80.0)
2	学生相談に関する体制は整備されているか	2.8 (2.8)	72.0% (67.3) ↑
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2.9 (2.8)	76.0% (65.5) ↑
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.8 (2.7)	68.0% (56.4)
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	▲2.5 (2.7)	54.0% (55.6) ↓
6	保護者と適切に連携しているか	3.0 (2.9)	86.0% (77.4)
7	卒業生への支援体制はあるか	2.6 (2.6)	51.0% (50.9)

(2) 現状

1. 進路指導課を中心に進路指導連絡協議会、進路指導の日、企業説明会等を企画し、組織的、計画的な就職支援体制が確立している。また、留学生の進路指導についても、進路ガイダンスの充実に努めている。
2. 担任を中心に、日々の教育活動やSHR等を通して問題を抱える学生のシグナルをいち早くキャッチし、早期に対応できる体制を整えている。

3. 特待生制度による奨学金の給付や授業料等の分納について個別に相談に応じるなど支援を行っている。また、進学、卒業を支援する新たな奨学金規定を設け支援体制の充実に努めている。また、令和2年度より実施される高等教育の無償化については、支援措置対象校となった。
4. 学生課に健康管理を担う厚生係を設け、学生の健康診断等の職務にあっている。また、専門機関との相談体制は徐々に整ってきているが、専門医や専門機関と連携してサポートする体制については検討中である。
5. 専門学校交流スポーツ大会などのイベント参加、ボランティア活動への参加には、活動費の予算措置を講じているが、今年度は中止となるものが多かった。
6. 電話連絡や家庭訪問等、保護者と連携したきめ細かい指導を行っている。また、保護者会が組織されており、役員会での意見交換をはじめ、学校行事への協力や教育備品の寄贈等、学校と連携して教育環境の整備に取り組んでいただいている。ただし、留学生に関しては保護者との連携が十分にできていない。
7. 創立30周年を機に、同窓会との連携が進んでいる。今後とも卒業生相互の絆を深めるとともに、動向把握に努めてゆきたい。

(3) いただいた意見

- ・学生支援の項目に関しては、担任の負担が大きい。
- ・学生の健康管理に関しては、大規模な感染症拡大を想定した体制の構築が必要と思う。

(4) 考察

全体的に平均点は上昇しているが留学生の指導に対しては改善の余地が多い。各学科と国際課および進路指導課の連携を進め、サポート体制の一層の充実に目指したい。

(5) 関係者評価・意見

意見：なし

6 教育環境

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切	3：ほぼ適切
		2：やや不適切	1：不適切
1	施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか	2.5 (2.5)	49.0% (51.8) ↓
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2.8 (2.8)	72.0% (69.2)
3	防災に対する体制は整備されているか	3.0 (2.9)	80.0% (75.0)

(2) 現状

1. 施設・設備は、専門教育の推進に対応できるよう、可能な限り整備に努めている。
2. 工業専門課程の学科に対してはインターンシップを奨励しており、また企業での先端技術習得に向けた研修やイベント等へも積極的に参加しているが、今年度に関しては企業の役職員を招いた講義形式となった場合が多かった。なお、海外研修は今年度も未実施である。
3. 安全点検や避難訓練、救命法講習会を実施し、教職員の安全意識の向上、迅速な危機対応能力の向上に努めている。今後、さらに危機管理マニュアルの内容を充実させ、全教職員への周知を徹底し、緊急時の迅速で適切な対応に努めたい。

(3) いただいた意見

- ・施設・設備は完備されているものの老朽化が進んでいるため、順次更新が必要。(他2件)
- ・インターンシップや校外実習などはとても積極的に行われているので、今後もコロナに対応する形をとりながら続けていけたらよいと思う。
- ・避難訓練の頻度が不足しているように思うので、もう少し増やしても良いと思う。(他1件)

(4) 考察

本年度予算では実習設備等の充実を十分に行うことができていないが、優先順位を設け設備の更新や新設を進め、現場に即した学習内容の充実を進めたい。年2回のアンケート調査による学生の要望等についても丁寧に回答し、学生の学習意欲の向上に繋げたい。

防災に関しては危機管理マニュアルの内容を充実させ、適切な防災対策・緊急対応に努めたい。

(5) 関係者評価・意見

意見：被当社では災害時等におけるレンタル機材の供給を行っているが、学校での備蓄について何か考えているか。今後、役立つ情報提供をしていきたい。(測量環境工学科)

7 学生の受け入れ募集

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	学生募集活動は、適正に行われているか	○2.8 (2.5)	60.8% (46.3)
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2.8 (2.7)	72.5% (54.7)
3	学納金は妥当なものになっているか	3.1 (3.1)	88.2% (84.9)

(2) 現状

1. 広報企画課を中心に、各学科と連携して計画的な高校訪問やガイダンスへの参加に努めている。また、日本語学科入学希望の留学生についても、意欲、学力、経済的な面等を総合的に判断した適正な受け入れに努めている。
2. 教育成果は、ガイダンスや高校訪問等において正確に伝えるとともに、ホームページ上からも定期的に発信している。
3. 他の専門学校と同等であり、適正な金額である。

(3) いただいた意見

- ・広報と教務の情報交換が十分には出来ていない。(他3件)
- ・留学生には、より高い日本語力能力を求めたい。(他2件)
- ・日本人学生の確保に向けた募集活動にもっと力を注ぎたい。(他1件)

(4) 考察

今年度日本人出願者が大きく増えた。今後とも広報企画課と各学科との連携を強化し、学科と連携した計画的・戦略的な高校訪問等を行い学生確保に努めるとともに、オープンキャンパスの内容を充実して出願者の増加に繋げたい。

留学生については、日本での就職を念頭に、入学時から目的意識、日本語能力、経済状況などを的確に把握し、4年間の教育という観点で踏まえた適切な指導・支援・対応に努めている。

今後は日本語能力が高い留学生を入学させることを目指したい。

(5) 関係者評価・意見

意見：コロナ禍において、企業側として協力できることがあれば検討していきたい。また、留学生には、高い日本語能力を身につけさせるようお願いしたい。(電気工学科)

8 財務

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.3 (2.2)	41.3% (24.0)
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	○2.7 (2.5)	65.2% (46.9)
3	財務について会計監査が適性に行われているか	△3.2 (3.0)	82.6% (79.2)
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.2 (3.1)	79.5% (79.6)

(2) 現状

1. 学校の中長期的経営基盤は安定しているといえる。学生の確保に努め、財務の健全化に努めたい。
2. 事業計画に基づき予算・収支計画を策定し、適正に執行されている。
3. 毎年理事会において監査が行われ、適正な運用がなされている。
4. 財務状況は、理事会の監査を経た後、HP上に公表している。

(3) いただいた意見

意見なし

(4) 考察

今後も学生の確保に努め、財務の健全化に寄与したい。

(5) 関係者評価・意見

意見：なし

9 法令等の遵守

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.4 (3.3)	93.9% (92.6)
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.2 (3.3)	87.5% (92.6) ↓

3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.2 (3.1)	87.8% (83.6)
4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	3.5 (3.4)	94.0% (94.4)

(2) 現状

1. 法令及び専修学校設置基準を遵守し、各法令に準拠した適正な学校運営がなされている。
2. 個人情報については、コンプライアンスに基づき厳重な管理がなされている。
3. 毎年度自己点検・自己評価を実施し、課題等を明らかにするとともに問題点の改善に取り組んでいる。
4. HP 上に公開している。

(3) いただいた意見

- ・教職員間で認識のずれが若干感じられるため、もっと周知の回数を増やすべきだと思う。

(4) 考察

各部署での分析、総括を踏まえ、課題を共有し改善を目指すとともに、今後も法令遵守に努める。

(5) 関係者評価・意見

意見：なし

10 社会貢献・地域貢献

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	▲2.9 (3.1)	76.0% (81.8)
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	▲2.8 (3.0)	73.5% (74.5)
3	公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	2.9 (2.9)	76.0% (76.4)

(2) 現状

1. 大学生へのペインティング指導や各種団体への貸校舎等による本校施設の活用を推進している。
2. 学生課の重点目標にボランティアの推進を掲げ、清掃ボランティア、災害ボランティアへの参加を促し、意識は徐々に高まってきている。ただし、今年度に関しては活動の場が大きく縮小した。
3. 高校等への出前授業、子供向けイベントや各種イベントも積極的に取り組んでいる。また、専門実践教育訓練の施設として5学科が認定を受けている。社会人の学びの場としても、今後さらに教育の充実を図り、社会のニーズに応えていきたい。

(3) いただいた意見

意見なし

(4) 考察

コロナ禍のため今年度の地域貢献活動等は低調であった。収束後は地域・社会に求められる学校、貢献する学校となれるようボランティア活動への参加を積極的に促すとともに、学生の自主的な活動も支援する。あわせて、出前授業や地域の活性化に向けた活動への協力等を通して地域への貢献とともに、学生の成長、豊かな心の育成を図りたい。

教育訓練の受託としては、厚生労働省より専門実践教育訓練施設として5学科が認定を受けている。また、社会人も受講可能な建築士試験講座を開講している。社会人が中長期的なキャリア形成のための能力の習得を目指す、学び直しのできる教育機関としても社会に貢献していきたい。

(5) 関係者評価・意見

意見：なし

IV 学校関係者評価委員会について

学校関係者評価委員会は、参加者の日程の都合等により、次の2グループに分けて開催した。本報告書は、それぞれのグループから出された意見等を集約したものである。

第1グループ 令和3年6月29日(火) 13:00～15:00

出席委員：小上 敏寿、原 潔巳、白神 直子、岸本 晋一、池田 かおる

第2グループ 令和3年7月6日(火) 13:00～15:00

出席委員：栗田 真志、田中 浩二、森 幸久、坂本 忠俊、杉山 昌希
藪田 尊典

V まとめ

今回、各委員からいただきました御質問については、学校長、事務局長、各学科長が本校の現状と今後の取り組みについて説明し、御理解をいただきました。また、御意見や御提言等は、可能なところより今後の学校及び学科の教育活動に取り入れ、本校教育の一層の充実に取り組んでいく所存です。

おわりに、学校関係者評価委員会を開催するにあたり、御多用にも関わりませず御出席を賜りました委員の皆様へ、心から感謝申し上げます。